

公益信託 農林中金森林再生基金（森力基金） 2024 年度審査概要

2025 年 3 月

公益信託 農林中金森林再生基金では、国内の民有林の公益性を発揮させることを目指した活動に助成し、本基金事業の地域への波及・展開により森林の CO2 吸収機能を向上し、脱炭素社会の実現に貢献することを期待しています。2025 年度（第 12 回）の募集につきましても、昨年同様の内容で 4 月 1 日（火）から 6 月 30 日（月）までの 3 ケ月間行います。どうぞ奮ってご応募ください。

応募の際の参考に、2024 年度の審査概要（応募状況、全体講評、選定された団体の事業概況、審査上のポイント）をご案内いたします。

1 2024 年度の応募状況と選定結果

応募総数は 16 件で、そのうち 6 件（合計約 140 百万円）が選定されました。

応募のあった 16 件の内訳は、森林組合 13 件、森林組合連合会 2 件、一般社団法人 1 件でした。

2 全体講評

今回の決定案件は、山火事からの回復、共同施業団地化による路網整備と循環型森林施業の構築、森林サービス産業による森林経営モデルの構築、スマート林業を活用したマツ林の保全と活用モデル事業など、それぞれの地域が抱えている特有の課題等を解決し、これまでの取組みを一步前に進めることにより、地域の中核を担う事業体としての事業実施態勢の整備を目指す事業が主なものとなっています。

また、今回より助成対象事業として拡充した森林の空間利用事業等からも選定されています。

3 選定された 6 団体の事業概要

(1) 米沢地方森林組合（山形県）

① 事業名

南陽市秋葉山山火事からの超回復プロジェクト

② 事業概要

令和 6 年に発生した南陽市秋葉山における森林火災で焼失した 122ha に及ぶ森林については、全域が山形県南陽市立自然公園に指定されており、その再生に関して制限があることに加え、民有林については所有者の意識も低く、境界もわからない箇所も多い。

そこで、本事業では、境界明確化を行い所有者の確認等を行うとともに、エリアを自然公園の機能を発揮させる箇所、林業としての活用を目指す箇所等、制限内容や有識者の見解も踏まえたゾーニングを実施する。さらに、南陽市と連携し小学生や市民へ本事業の普及啓発活動を行うことで、将来にわたって市民に親しまれながら活用できるような、森林の持つ多面的機能が高度に発揮される秋葉山の再生を目指すという取組みが評価された。

【申請金額】総事業費：3,955 千円、森力助成：3,691 千円

(2) 出羽庄内森林組合（山形県）

① 事業名

共同施業団地化による路網整備と循環型森林施業の構築（3年間事業）

② 事業概要

当組合の管轄地域には豊富な森林資源があるにも関わらず、主要な路網が少なく木材搬出が困難で林業採算性が低いことから、積極的な森林施業が行われず荒廃している。

本事業は、同様の問題を抱える市や推進機構が管理する山林を共同施業団地化することで、より効率的な路網配置の計画を作成し、大型トラックが通行可能な林業専用道（規格相当）を整備、地域全体の搬出間伐などを促進し、土砂流出防備など山林の持つ公益的機能の維持・回復と木材資源の有効活用を図るという取組みが評価された。

【申請金額】総事業費：68,331千円、森力助成：30,000千円

(3) めながわ森林組合（新潟県）

① 事業名

公図未整備地区における荒廃民有林「東中千本スギ」再生事業

② 事業概要

事業対象地である新潟県糸魚川市の通称「東中千本スギ」地区は、名前のとおりかつては、地域住民から期待される林業地域であったが、所有者の山離れや境界が不明になるなどして荒廃化した。

当組合は、2024年度事業において、現存する和紙図の調整・解析に基づく森林地番想定図の作成を通して、所有者の合意形成を図ってきた。本年度は、整備したデータをもとに、勾配が緩く崩れにくく、かつ維持管理も含め低コストな林業専用道や森林作業道の路網整備等を行い、木材生産機能など森林の多面的機能の回復を図り、荒廃林を再生し、地域の持続可能な森林管理の仕組みを作るという取組みが評価された。

【申請金額】総事業費：37,921千円、森力助成：16,040千円

(4) 南都留森林組合（山梨県）

① 事業名

「提案型集約化施業を軸とした森林サービス産業」による森林経営のモデル構築事業

② 事業概要

当組合では提案型集約化施業を軸とした森林整備を進めているが、整備完了後の森林の継続的な維持管理が課題となっている。

本事業では、施業の際に開設した森林作業道や、木馬道、赤道など森林に眠っている古道を地域資源として掘り起こし、社会的にニーズが高まってきているマウンテンバイクコースとしての「森林利用と維持管理」を他団体連携の中で高度に融合させるとともに、水源かん養や土砂流出防備といった公益性に最大限配慮した持続的な森林利用を進め、森林所有者の森林への関心・森林経営への意識を高めていくという取組みが評価された。

【申請金額】総事業費：42,682千円、森力助成：30,000千円

(5) 一般社団法人大和森林管理協会（奈良県）

① 事業名

次世代の吉野林業を新たに構築する ―ウィッセン集材機の活用―

② 事業概要

事業対象地である吉野林業地域においては、これまで主流であったヘリコプター集材は縮小傾向にあり、近年作業道開設の導入も図っているが、その適地は限定的で開設に時間を要することもあり、架線集材の復活が望まれている。

本事業では、奈良県庁が導入したスイスのウィッセン集材機を活用して、吉野林業に適した架線集材法を導入するとともに、その担い手を育成し、吉野郡内への普及等を通じて吉野林業を新たに構築するという取組みが評価された。

【申請金額】総事業費：38,428 千円、森力助成：30,000 千円

(6) 沖縄県森林組合連合会（沖縄県）

① 事業名

慶良間諸島のリュウキュウマツ保全・活用を目指す

～スマート林業を活用したマツ林の保全と活用モデル事業～（2年間事業）

② 事業概要

令和3年に慶良間諸島西方の久米島町で確認された松くい虫被害は急速に拡大し、防除作業は行われているものの、被害の低減は難しい状況にある。事業地の渡嘉敷村、座間味村には今のところ松くい虫被害は入っていないが、小さな自治体であり、松くい虫被害の適正な監視や防除の迅速な初動対応が課題である。また、両村ではリュウキュウマツ漏脂胴枯病被害が確認されており、その被害対策が求められている。

このため、本事業では、枯損木調査、漏脂胴枯病の被害木駆除を行うとともに、地域住民が主体となり、松くい虫被害監視活動ができるよう普及啓発を行う。加えて、貴重な材としてニーズの高いリュウキュウマツについて、離島から伐採・搬出・販売するスキームを確立し、マツ林の保全と活用を両立させるモデルを構築するという取組みが評価された。

【申請金額】総事業費：30,909 千円、森力助成：30,000 千円

4 審査上のポイント

事業の中でも、特に(1)、(2)に重点を置いたうえで、次のような緊急性、継続性、波及性等が高い事業・活動を選定しますので参考にしてください。

(1) 助成金終了後も継続性・波及性が認められる事業

- ・ ノウハウ・技術・生産性の向上、コスト削減等の取組み
- ・ 地況・林況・森林施業等が同種の地域における模範となる取組み
- ・ 事業基盤充実（人材育成、機械化等）を目指した取組み

(2) 過去に例のない先進的事業

(3) 山づくりの長期的ビジョンが描かれ、それに基づいて申請事業の位置づけが明確な事業

(4) 施業対象となる森林の整備が危急と認められる事業

(5) 協同組合・地元住民・ボランティア・行政等と連携した活動

以 上